

令和8年度 学校評価報告書 (目標設定・実施結果)

	視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (月 日実施)	総合評価 (月 日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1	教育課程 学習指導	<p>①カリキュラム・マネジメントの視点から魅力ある教育課程を編成し、運用・改善する。</p> <p>②ICT を利活用しながら、授業改善に組織的に取り組み、基礎学力の定着を図り、思考・判断・表現する力を伸長することで、主体的に活動できる人材を育成する。</p>	<p>①新校の教育課程への円滑な移行を目指す。</p> <p>①生徒の主体的な学びの場面の充実を図り、新校の目指す「探究する力」の育成につなげる。</p> <p>②1人1台端末をはじめとするデジタル学習基盤の更なる活用により、生徒の主体的な学びの伸長を図る。また、年間を通じて組織的に授業改善を推進することで、教員の指導力の向上を図る。</p>	<p>①新校の教育課程について全体で確認する場を設け、次年度に向け教科等が年間指導計画を策定することができるようなタイムスケジュールを組む。</p> <p>①現行の教育課程において、生徒の主体的な学びを促進させる指導法の充実を狙いとした校内研修を設定する。</p> <p>②1人1台端末と併せてロイロノートや電子黒板の活用を促進し、個と集団の活動の往還を図る。授業改善においては、重点課題別にグループを編成し、通年にわたり協議や互見を重ねながら授業改善に取り組む。</p>	<p>①新校の教育課程について、教科等が年間指導計画を策定するために要する日程管理を確保・実施することができたか。</p> <p>①②現行の教育課程における授業改善について、生徒による授業評価アンケートにおける関係項目について、8割以上の肯定的な回答を得られたか。</p> <p>②授業の互見や協議に参加することを通して、授業改善に向け自身の知見が広げられたという実感を、8割以上の教員に得させることができたか。</p>					
2	生徒指導・支援	<p>①基本的な生活習慣の確立を図るとともに、社会の一員として行動するための規範意識を高める。</p> <p>②生徒1人ひとり個に応じた支援の充実を図る。</p> <p>③自己理解・他者理解を深め、自他を尊重できる人間関係を築き、コミュニケーション能力を育む。</p>	<p>①自転車の交通ルールやマナーをしっかりと理解させ、命を大切にす行動がとれるよう、教職員全体で取り組む。</p> <p>②SC や SSW と教職員の連携を密にし、生徒を速やかに支えていけるシステムを構築する。</p> <p>③自主自律の精神のもと、生徒主体の行事運営を行い、他者との違いを理解し自他を尊重できる人間関係を築き、コミュニケーション能力を育む。</p> <p>③新校開校に向けて、更なる部活動の活性化を図る。</p>	<p>①交通安全講話やスクエアストレイトの実演、交通安全週間を設定し、生徒に規範意識を持たせる。</p> <p>②SC、SSW と教職員の連携がスムーズに行われ、支援を必要とする生徒に、適切な支援が行えるようにする。</p> <p>③生徒が主体となり、行事の企画・運営を行う。既存のことにとらわれず、新たなアイデアなどを考えられるよう、適切な助言・支援を行う。</p> <p>③部活動の加入に向けて、周知方法を工夫する。</p>	<p>①自転車による交通事故や「安全運転義務違反」による近隣からの苦情の件数が減少したか。</p> <p>②支援を必要とする生徒に対して、保護者との協力がもと、適切に支援することができたか。</p> <p>③学校行事・生徒会活動・ボランティア活動などの生徒活動において、実施後のアンケートで9割以上の生徒が主体的、積極的に取り組み、達成感・満足感を実感できたか。</p> <p>③部活動加入率を70%以上にすることができたか。</p>					

視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (月 日実施)	総合評価 (月 日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
3 進路指導・支援	①10年後(AGE28)の自分をイメージしたキャリア形成ができるように、3年間を通したキャリア教育実践計画に基づき、キャリアデザイン能力を身につけさせる。 ②希望進路の実現に向けて組織的に歩みを進められる環境を学校全体で提供する。	①教員・生徒双方にとって扱いやすい仕組みを整えることで、3年間を見通した一貫性のある支援を実現する。 ②希望進路の実現に向けて組織的に歩みを進められる環境を学校全体で提供する。	①新システムの円滑な運用に向け、全教職員対象の活用研修を実施する。 ①生徒が系統的に自己分析できる仕組みを定着させる。 ②「総合的な探究の時間」では、社会資源を活用しながら、基礎から発展的な手法を踏み、「アウトプット」を重視し、組織的に育成する。 ②情報を視覚的に整理し、適宜発信する。	①教員研修を通じて、担任が具体的な進路指導やキャリア支援の手法を実践できているか。 ①システムの活用により、生徒が家庭学習の管理からテスト分析までを主体的に行い、自己分析能力の向上が見られたか。 ②「総合的な探究の時間」において、探究プロセスに生徒が達成感や満足感を得られているか。 ②情報発信が適宜行えているか。					
4 地域等との協働	①学校と地域の連携協働の「現状と課題」を把握し、改善を意識した学校運営協議会を運営する。 ②学校と地域の連携協働の促進により地域とともにある開かれた学校づくりを進め、地域の中で生徒の主体的な取組を支援する。	①学校運営協議会と各部署の連携をより強化するため、情報共有や意見交換を密に行い、様々な取組の情報発信をさらに充実させる。 ②地域との連携協働により、生徒の主体的な取組を推進し、さらなる地域交流をめざす。	①学校運営協議会の意見や提言を活かす取組ができるよう、各部署との連携を図る。また「あさひだより」を紙面での配布及びHPへの掲載をすることで学校の情報を地域に広報する。 ②今までの交流を継続しながら、新たな地域交流について模索する。	①各部署と連携し、学校運営に生かす具体的方策について集約し、実現できたか。 ②地域との連携協働により、生徒の主体的な取組を推進し、ピリブやスクールフェスティバルなど充実した地域交流ができたか。					
5 学校管理 学校運営	①ICTを活用した様々な活動を支援するための教育環境を整備する。また、ICT活用により業務の効率化を図り、働き方改革を実践する。 ②地域への情報発信を迅速に行い、開かれた学校づくりを推進する。	①新校開設に向けて教育施設およびICTを含め教育環境の整備・充実に努める。 ①締めくくりとなる旭高校PTA活動をより一層充実させる。 ①働き方改革の情報、電子黒板や一人一台端末などのICT活用、AI活用についての情報共有を積極的に行う。 ②学校説明会やホームページ等さまざまなメディアの活用を一層強化し、学校生活の様子を発信する。 ②新校に向けて校名や制服などの情報を適切に発信する。 ②開かれた学校づくりを推進するため、事故不祥事を学校から出さないように環境を整備する。	①ネット環境の改善や施設の改修、備品購入のために利用状況の確認、分析等の対応を速やかに細やかに行う。 ①広報Gとも連携して地域への働きかけをPTA、生徒、協働で行う。 ①TEAMSの掲示板や職員会議等で情報共有を積極的に行う。 ②生徒主体の学校説明会の充実を図るため、回数を増やして新校の情報と魅力を中学生や保護者に伝える。 ②動画配信等の宣伝媒体を工夫する。新校に向けて情報発信するため学校案内を二度作成する。ホームページ上でも新校情報を積極的に更新していく。 ②不祥事防止について、時期に応じて計画的に行い、自分事として捉えられる研修を実施する。	①校舎内のどこにおいてもICTを活用した教育活動を後支えすべく、ネット環境の改善、充実を図ることができたか。 ①PTAクリーンアップや地域貢献活動において、より多くの人数の参加による、より広範囲への対応ができたか。 ①校務や授業等での電子黒板や一人一台端末などのICT活用、AI活用などが増加したか。 ②学校説明会の「学校紹介・教育課程について」などのアンケートで90%以上の肯定的回答が得られたか。 ②ホームページの更新を増やし、新校の情報を適切に発信できたか。 ②不祥事防止研修を毎月実施し、時期に応じて発生しやすい事案について自分事として捉えられる内容の研修を実施できたか。					

